

60

東京国立博物館所蔵の『五躰身分抄』について

富田 貴洋, 長野 仁

森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科

東京国立博物館は『五體身分集』全3冊(和283,『體集』と略)と共に,別系の『五躰身分抄』存2冊(和3423,『躰抄』と略)も所蔵する.両書は閲覧停止のため,演者らは2019年11月22日にマイクロフィルムで閲覧・複写した.その結果,『躰抄』が旧貌を留めていると認められたので報告する.

『躰抄』に「天保四年癸巳正月廿八日,借小島尚古蔵書写畢,坂璋」,『體集』に「右,『五體身分集』三卷,借小島尚古蔵本写,天保四年癸巳三月小春日,加朱圈注愚案訖,土佛後葉,坂璋記」とあり,両書とも坂士仏(1327~1415)の後裔で幕府医官の坂璋が,小島宝素(1797~1849)から借用して1833年に筆写したものである.両書の「坂氏蔵書之記」「荷阜坂氏之章」「名璋字彦聞又呈髦」「丹丘」「天保癸卯献納坂立節」「江戸医学蔵書之記」「帝国博物館図書」の印から,坂璋(荷阜・彦聞・呈髦・丹丘・立節)は10年後の1843年に江戸医学館へ献納し,帝国博物館を経て現蔵となったことが知られる.

『體集』は奈須恒徳(1774~841)の跋を附し,「豊公の北条を征するや,佐野の主(信吉)は城を棄てて走り,服部某(甚兵衛)助けて佐野に臣事し,主の家居亡きに及び,医を修めて雲仍(9代:政世)相続し,今に至りて其の業変わらざり,郷閭に呼びて乗付甫庵(1804~89)とす.(小)島学古,家に先人遺す所の方策有るを聞き,予を价して斯の書の伝写を懇求す.適さか尾府・浅井正封(貞庵:1770~1829),亦た『五躰身分抄』二卷を寄せ,以て学古に逞し,友の志を尚ぶ.所謂“五躰身分”は是れ内典の語,『喫茶養生記』に云ふ,近年以来“五躰身分”の病は皆な冷氣なり.榮西・生西,孰れが先か孰れが後かを知らず.二西は浮屠(僧侶)故に諸もろを内典に取る.一に曰く『抄』,一に曰く『集』,予,二本を比閱するに,文辞亦た異なれり.『身分抄』顯らかに署して“香椎宮学頭生西”と曰ふ.其の本,当に是れ古本なるべし.然れど唯だ上卷のみ,余は附録に属す.斯の本,後の刪補に係ると雖も,始末は巋然として完備す.只だ刪補の何人に在るやを知らず,要は,豊公の北条を征するの前に在る者,必せり.文政己丑(12:1829)九月朔,玄盅散人(筆写ら訓読)とある.すなわち,『體集』は佐野の服部家,『躰抄』は尾張の浅井家の伝書で,後者は浅井家の段階で存2冊であった.

もと上中下巻の『躰抄』は,上の巻前に諸膏薬部を附し,下の続冊に靈薬対治・秘薬和名集・靈医合葉伝・悪瘡靈医を収めて壹・貳・參・肆の4冊に改増,うち壹・肆冊が現存する.本来の上巻の冒頭には『五躰身分抄』三卷/耆婆 鷓鴣 忠明 雅忠 等伝/日本国 筑前国 香椎宮学(割注①:頭生西/撰之)/目録次第(割注②:第一卷,内記八段,而明百/八十四病,上卷也)/凡上中下三卷記四百五十病」とある.②は3巻を4冊に改増した本人の記録,①は匿名の撰者を学頭の生西と躊躇なく特定,改増者は生西の直門とみるのが自然である.

榮西『喫茶養生記』(1214再治)と連動した桑粥の重視は,『體集』に無い『躰抄』の特色である.①②が無い原『躰抄』は,『吾妻鏡』(1238.10.12.)の「雅忠朝臣相伝医書」に該当する可能性がある.現『躰抄』附録の典拠となった『和剂局方』の和訳および『頓医抄』(1302~04)への援引などから,原『躰抄』成立と現『躰抄』改増は13世紀の出来事と認められる.